

公募シンポジウム44

犯罪捜査と記憶 2

- 企画代表者 尾藤 昭夫 奈良県警察本部科学捜査研究所
- 話題提供者 尾藤 昭夫 奈良県警察本部科学捜査研究所
- 話題提供者 福島 由衣 日本大学
- 指定討論者 蓮花 一己 帝塚山大学
- 指定討論者 中園 江里人 近畿大学
- 司会者 桐生 正幸 東洋大学

- 日本心理学会研究集会等助成「事実認定－犯罪捜査と記憶の研究會」

犯罪捜査と記憶 2 主旨説明

奈良県警察 科学捜査研究所

主任研究員

尾藤昭夫

はじめに

- 昨年度の犯罪心理学会（奈良女子大学）で『犯罪捜査と記憶』というミニシンポジウムを開催いたしました。
- 警察庁科警研の情報第一研究室小川室長には、ポリグラフ検査が犯罪捜査の中である仮説を棄却する反証として役立ちうることを原理的に示した発表をしていただきました。
- 同じく捜査支援研究室和智主任研究員には、取調べでの被誘導性の問題についての発表をしていただきました。
- 尾藤は、「犯罪捜査における記憶の重要性について」と題し、ポリグラフ検査で誤認逮捕を回避したニアミス事例（仮想事例）を発表した。

- 近年、誤認逮捕、冤罪（false alarm）の防止が大きな問題となっている。
- 昨年のシンポジウムは、それに対する、警察側での努力を示したものであった。
- ところで、犯罪捜査には、誤認逮捕、冤罪以外に大きな問題がある。
- 最近、次のようなことがニュースで報道されている。

NEWS 2019年05月14日 12時41分 JST | 更新 2019年05月14日 12時42分 JST

“性暴力”で相次ぐ無罪判決に被害者団体がNO 刑法の見直しを求め法務大臣へ要望

「同意がない」と認定されながら、無罪となる性被害の判決が3月、立て続けに起きていた

Shino Tanaka



今年4月に開かれたフラワーデモ。400人が集まった＝東京駅前で

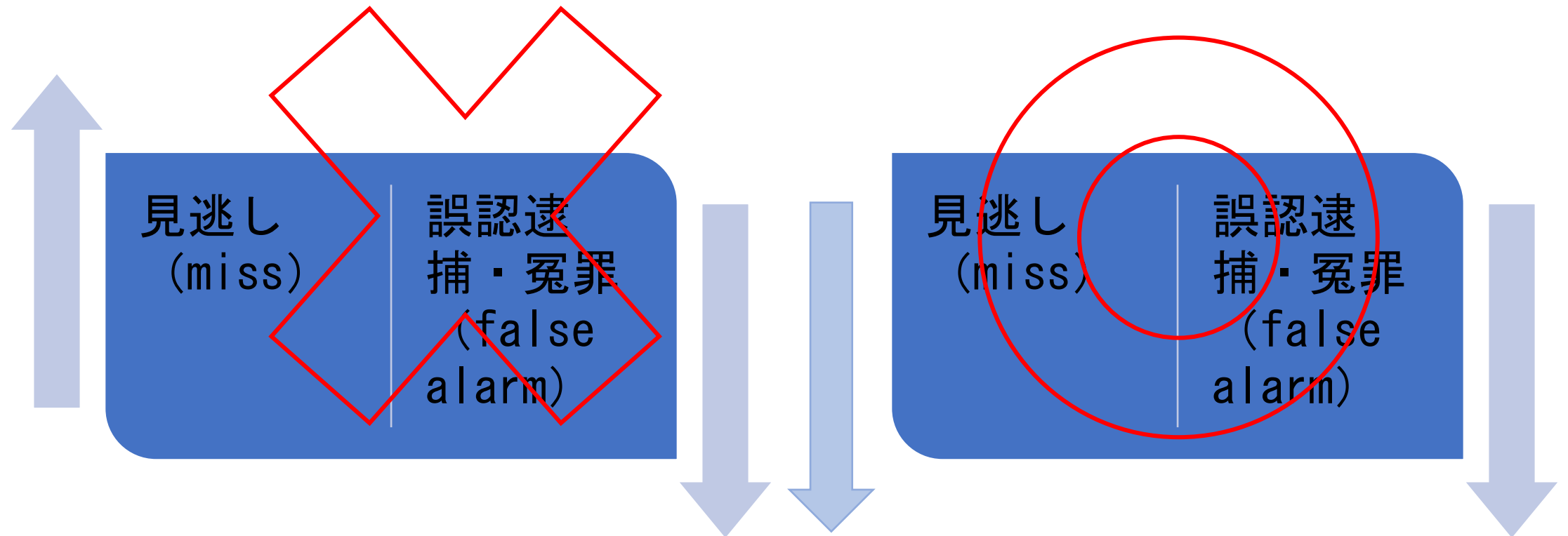
事件の見逃し (miss)

- の問題である。
- ニュースになった事例は、父親が実の娘さんに対し性的虐待を続けていたわけだが、同意がなかったことがわからなかった可能性があるとして無罪になったものである。
- 記事の中には、「性犯罪予備群に対して、『これだけのことをやっても無罪なのだから、レイプし放題だ』などという誤ったメッセージを与えてしまう」という意見が述べられていた。

- レイプ神話で女性の同意がなかったのがわからなかったから無罪、というのもしがなものか、と感じられる。
- 実の娘さんが父親との性行為に同意していないのがわからなかったというののも一般常識から考えて不思議な感じがしないだろうか。
- ところで、性犯罪に関して、無罪判決の多発が問題となっているが、性犯罪だけではないと考えていただきたい。

国民の生存権、所有権等々を護っていくために何をすべきかということを考える必要がある。

誤認逮捕・冤罪 (false alarm) の防止と共に
見逃し (miss) の防止も図らねばならない。



そのためにどうすればいいか考えるというのが本
シンポジウムの目的となる

シンポジウムの内容

- まず、日本大学の福島先生に、記憶研究者の立場から、証拠とするのに十分な目撃証言を得るためにどのようにすればよいかお話ししていただく。
- 尾藤が、次に、ポリグラフ検査の結果を事件解決のための証拠とするためにはどのようにすればよいかについて議論する。
- その過程で法学と心理学との関係について洞察が得られたのでそれについても話をさせていただく。
- 近畿大学の中園先生からは、法学者、刑事訴訟法の立場から議論していただく。
- 帝塚山大学の蓮花学長には、これらの議題について応用心理学の大きな立場から議論していただく。

先生方をご紹介

- 話題提供者 福島 由衣 日本大学
- 指定討論者 蓮花 一己 帝塚山大学
- 指定討論者 中園 江里人 近畿大学
- 司会者 桐生 正幸 東洋大学
- 企画代表者 話題提供者 尾藤 昭夫
奈良県警察本部科学捜査研究所